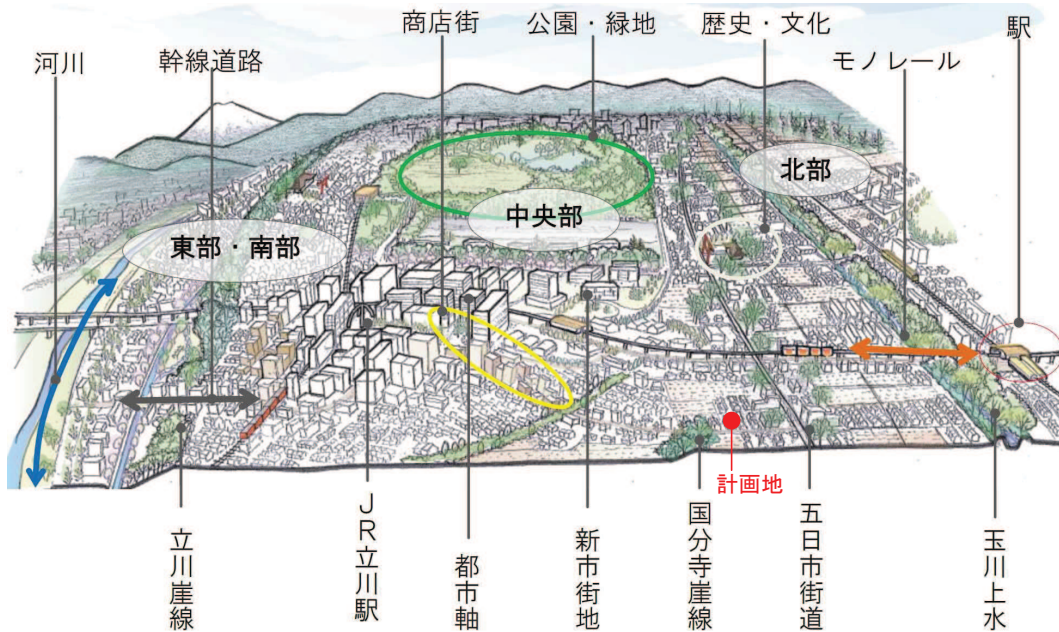


広域的にみた環境特性

地形的な特徴

- ・本計画地は、立川市の北西部に位置し、武蔵野台地上の丘陵地に立地している。
- ・武蔵野台地は多摩川によって形成された河岸段丘からなり、低位面の立川丘陵(立川面)、本計画地が立地している高位面の武蔵野丘陵(武蔵面)によって構成される。
- ・それぞれの段丘の境にある崖地の連なり(立川崖線と国分寺崖線)には緑豊かな斜面林が残されている場所も多く、自治体の景観計画において保全対象となっている。本計画地南側には国分寺崖線の斜面林が見られる。
- ・本計画地北側には玉川上水が東西を縦貫している。
- ・本計画地内の地形は東から西へ、北から南へ緩やかに下っている。



立川市景観計画「景観特性P17」より抜粋



段彩図(電子国土Web:国土地理院)

広域的にみた環境特性

緑の分布

- ・鳥瞰図をみると、本計画地周辺が緑豊かなエリアであることが分かる。
- ・玉川上水沿いの緑や国分寺崖線の斜面林が帯状に連続している。
- ・国分寺崖線の斜面林が本計画地の南西部で確認できるが、それより北側にまとまった緑が見当たらないことより、この位置が上流の起点になっていると推察される。
- ・生産緑地が多く、本計画地周辺に都市公園が少ないことが分かる。
- ・このエリアに都市公園が少ないため、本計画地および周辺の集合住宅団地の緑地(オープンスペース)は、近隣にとって貴重な憩いの場となるといえる。



鳥瞰図(GoogleEarth)



国分寺崖線の緑



玉川上水沿いの緑

広域的にみた環境特性
歴史的な変遷 -1

- ・江戸時代中期に玉川上水の水源を活用して新田開発が行われ、街道に面する間口が狭く奥に長い短冊状の敷地割が特徴的な農地が形成された。時代を経て多くが宅地に転換された今もその敷地割がベースとなっている。
- ・玉川上水、五日市街道、国分寺崖線に付帯する緑の連続は時を経て成熟し、今ではこの地域の骨格をなす重要な景観軸となっている。



明治時代初期に作成された迅速測図(出典:歴史的農業景観閲覧システム)
～計画地周辺の砂川村一帯は大正時代に桑苗生産全国一となったこともあるようで、特産地として有名であった。現在では植木生産が盛んな地域となっている。



1947(S22)
～街道沿いに集落が連なる武蔵野の風景が広がっている。



1961(S36)
～新田エリア内に建物が見られるようになる。



2024(R05)



1974(S49)
～けやき台団地が完成(共用開始は1966年(S41))したころには宅地化が大幅に進行している。



1992(H4)
～玉川上水沿いの雑木林の南側に若葉台団地が整備されている。